

林業ぐんま



平成27年5月24日 第69回 群馬県植樹祭(嬭恋村バラギ高原)

林政情報	1
「ぐんま緑の県民税」 導入から一年が経過しました	1
普及コーナー	3
建築・土木分野における 木材利用支援事業のご案内	3
各地のたより	6
(渋川) 竹林整備と竹材の有効利用に 向けての取り組み	6
(西岡) 春の緑化行事について	6
(藤岡) ぐんま緑の県民基金事業を 活用した森林環境教育	6
(利根沼田) 緑の募金と苗木配布会	6
(桐生) みどり市森林体験教室の開催	6
(富岡) 愛される地元の里山づくり	6
(吾妻) 各地で苗木配布会を開催 地域を担う人	11
須田 光さん 日部 隆広さん	11
丸山 徹さん	11
森の談話室	12
「チェインソーマンとして」	12
多野東部森林組合 今井陽樹さん	13
林業試験場から	13
ニホンジカの効率的捕獲について	13
トピックス	14
林業改良普及協会第56回通常総会の開催	14
森林・林業を支え、みどり豊かな 郷土群馬づくりに貢献する	15

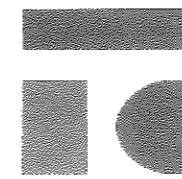
目次



岩井建設株式会社

富岡市神農原70-2 TEL.0274-63-6527
http://www.iwai-site.co.jp

総合建設業



株式会社塚本工務店

TSUKAMOTO

〒375-0024 群馬県藤岡市藤岡 1848-1
TEL:0274-23-1212
E-mail:eigyoubu@tsukamotokoumuten.jp
http://www.tsukamotokoumuten.jp

災害に強い森林づくりの推進・林道・作業道事業の拡充強化
堤名板の受注・治山事業・林道事業・県有林事業の歩掛公表

群馬県治山林道協会

会長 織田 沢 俊幸

〒371-0854 前橋市大渡町1-10-7 公社総合ビル6階
TEL 027-280-6255 FAX027-255-6265

ふるさとの木で家を建てよう

県産材を使って

住宅を建築すると最大80万円

県が補助します

内装を施工すると最大20万円



ぐんま優良木材品質認証センター
〒379-2131 前橋市西善町524-1
電話:027-266-8220
http://www.gunma-wood.com/

林政情報

ぐんま緑の県民税
導入から二年が経過しました

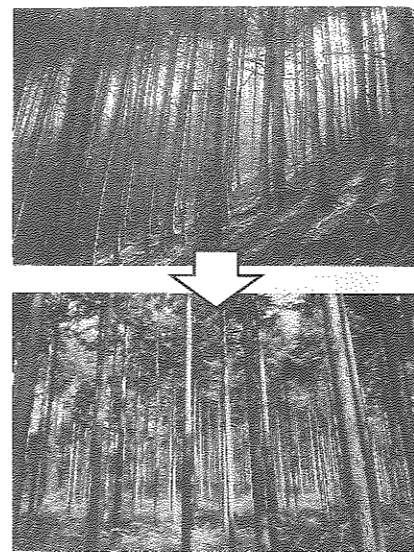
豊かな水を育み、災害を防止するなど、私たちの暮らしを支え、多くの恵みをもたらす森林は、県民共有の財産です。

県では、この大切な森林を守り、育て、次世代に引き継いでいくために県民税均等割の超過課税として「ぐんま緑の県民税（通称）」を平成二十六年四月から導入し、目指すべき二つの目標を掲げ、三つの事業をおこなってきました。

本事業は平成三十年度まで継続しますので、積極的な活用のご検討をお願いします。

目指すべき目標①

豊かな水を育み、災害に強い森林づくり



竹林の整備状況

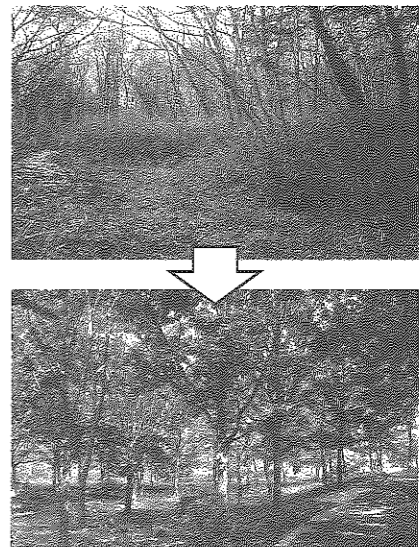
事業活用団体からの声

本事業を活用していただいた団体からは、「今後も本事業を活用して地域の森林を整備していきたい。」との声が寄せられました。

本事業を活用することで、団体活動が活発になり、県民共有の財産である森林が整備されれば、事業目標を達成できると考えています。今後も事業PRを行い、森林整備を推進します。

目指すべき目標②

里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境を創造



平成二十六年年度実績

▽水源地域等の森林整備事業▽

県が発注し、間伐等の森林整備を行いました。

1. 条件不利地森林整備事業	5カ年目標面積 3,500ha	平成26年度実績 295ha
2. 水源林機能増進事業	5カ年目標面積 500ha	平成26年度実績 93ha
3. 松くい虫被害地の再生事業	5カ年目標面積 200ha	平成26年度実績 12ha
合計	5カ年目標面積 4,200ha	平成26年度実績 400ha
	予算額 3.86億円	実施額 2.99億円

▽ボランティア活動

森林環境教育の推進▽

「森林ボランティア支援センター」の整備を進めました。

- ・森林ボランティアセンターの設置
- ・林業機械取扱安全講習会の開催
- ・指導者育成カリキュラムスの作成
- ・指導者養成講座の開催により、指導者を30名認定した

予算額 0.06億円
実施額 0.05億円

▽市町村提案型事業▽

市町村と地域住民やNPO・ボランティア団体等との協働による地域に根ざした整備を支援しました。

1. 荒廃した里山・平地林の整備	22市町村	63事業
2. 貴重な自然環境の保護・保全	6市町村	7事業
3. 森林環境教育・普及啓発	11市町村	15事業
4. 森林の公有林化	3市町村	3事業
5. 独自提案事業	4市町村	5事業

合計 市町村数 29市町村
事業数 93事業
予算額 1.90億円
補助金額 1.64億円

▽平成27年度追加点▽

一部補助金額を追加・拡充しました。

- 困難地整備支援
樹種転換のための皆伐
〈里山・平地林〉 上限1,500千円（追加）
〈竹林〉 上限5,900千円（追加）
〈特殊伐採〉 補助率1/2以内
ただし上限2,000千円（追加）
- 森林環境教育・普及啓発
〈加算措置〉
学校が森林環境教育を実施し、補助金額が基礎枠を超えた場合、1校当たり150千円を加算（拡充）

Q&A

事業を行っていく中で、次のような質問がありました。事業活用の参考にしてください。

Q 道路に面した森林に竹が繁茂し、獣の住み家となっているので、竹を伐採したいですが、困難地整備支援として市町村発注事業に補助してもらうことは可能ですか？

A 可能ですが、面的な整備をしてください。また、降雪時には雪の重みで竹がしなり、歩行者や車両通行の支障となっています。歩行者や車両通行の支障となっています。

Q 本事業で伐採した竹を現地で粉砕したいのですが、粉砕機の購入は補助の対象になりますか？

A 市町村での購入が対象になります。購入後は市町村で管理してください。

Q 小学校が毎年行っている森林学習のバス代は対象になりますか？

A なります。講師を招いての学習などの基準がありますのでご相談ください。

事業説明会

住民説明会へ伺うなどの活動により、徐々に県民の皆さんに周知されています。今後も積極的な広報活動を継続しますので、事業説明の御要望、事業内容の問い合わせは県庁林政課までお願いします。



問い合わせ先 林政課林政推進係
電話 027-226-3214

建築・土木分野 における木材利用 支援事業のご案内

群馬県における木材需要の約八割は建築・土木用材であり、住宅や公共建築物・公共工事等を中心とする建築・土木用材の需要拡大が木材全体の需要拡大に大きく貢献しています。

県では、木材利用の促進を図るため、住宅や公共建築物・公共工事等を対象とした支援事業を次のとおり定めていますのでご活用ください。



群馬県のマスコット「ぐんまちゃん」

一般住宅への支援

○ぐんまの木で家づくり支援事業（県補助）

ぐんま優良木材を使用して、県内に自己の居住用の住宅を新築・購入または内装を改装する場合に、費用の一部を補助します。

▽構造材補助

・対象 住宅の延床面積が七十㎡以上で、構造材の五十%以上にぐんま優良木材を使用した木造在来軸組工法による一戸建て住宅の新築または購入。柱材の太さは、補助の区分に応じて、全て十二㎝角以上または十・五㎝以上であること。

・補助金額 柱材の太さ、延床面積とぐんま優良木材の使用割合に応じて十五万円～八十万円

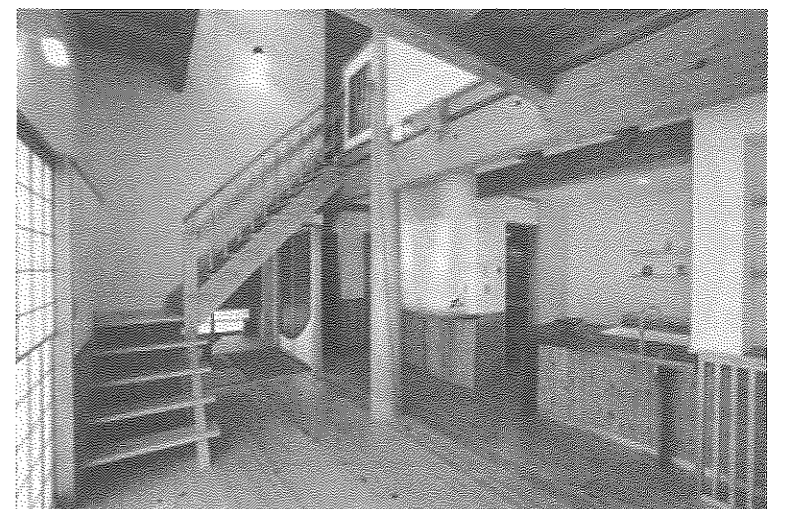
・募集戸数 七百三十戸（先着順）

▽内装材補助

・対象 内装材及び建具にぐんま優良木材を十㎡以上使用した住宅の新築または新築住宅の購入あるいは現在住んでいる住宅の改装。

内装材補助については、木造以外の住宅やマンション等の集合住宅でも利用できます。

・補助金額 内装材一㎡あたり三千元、建具



一般住宅への県産木材利用

一㎡あたり三千元または一万一千円。上限二十万円

・募集戸数 六十戸（先着順）

※構造材補助と内装材補助は、併用できません。

◆「ぐんま優良木材」とは、合法的な手続きを経て伐採された群馬県内産の素材丸太等を原材料として生産される製材品であって、ぐんま優良木材品質認証センターが定める基準に適合する製材品です。

公共建築物等への支援

○公共施設等県産材活用推進事業（県・市町村補助）

市町村木材利用方針※の策定済み又は見込みの市町村において、次の要件を満たす、市町村、学校法人、社会福祉法人等が教育・福祉関連施設を木造・木質化する場合に支援します。

▽公共施設の木質化

・対象経費 内外装等の県産材による木質化に要する経費。

・補助要件 床、壁、天井、外壁の木質化で、使用部材厚が十二㎜以上であること。

・補助金額
市町村・県三千元/㎡【上限三百万円】
学校法人・社会福祉法人等六千元/㎡
（県三千元/㎡【上限三百万円】）
市町村三千元/㎡

▽外構施設の木造化

・対象経費 外構施設の県産材による木造化に要する経費。

・補助要件 二㎡以上の木材使用量があること。

◆補助金額

延床面積	ぐんま優良木材使用割合	交付区分	50%以上	60%以上	70%以上	80%以上	90%以上
			60%未満	70%未満	80%未満	90%未満	90%以上
70㎡以上 99㎡未満		A	—	30万円	30万円	40万円	40万円
		B	—	20万円	20万円	30万円	30万円
		D	15万円	—	—	—	—
99㎡以上 132㎡未満		A	—	30万円	40万円	40万円	50万円
		B	—	30万円	30万円	40万円	40万円
		D	20万円	—	—	—	—
132㎡以上 165㎡未満		A	—	40万円	50万円	50万円	60万円
		B	—	40万円	40万円	50万円	50万円
		D	25万円	—	—	—	—
165㎡以上		A	—	50万円	60万円	70万円	80万円
		B	—	40万円	60万円	60万円	60万円
		D	30万円	—	—	—	—

●募集戸数：730戸（先着順）
内訳

区分	ぐんま優良木材使用割合	柱材寸法	募集戸数
構造材補助(A)	60%以上	12cm角以上	440戸
構造材補助(B)		10.5cm角以上	230戸
構造材補助(D)	50%以上60%未満	10.5cm角以上	60戸

※柱材寸法は、全ての柱材の短辺の仕上がり寸法に適用する。

・補助金額

市町村・県 1/4【上限百万円】
学校法人・社会福祉法人等 1/2
（県1/4【上限百万円】 市町村1/4）

※市町村木材利用方針とは、「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」（平成二十二年法律第三十六号）に基づく市町村方針をいう。



小学校への県産木材利用

▽お問い合わせ先
群馬県林業振興課

電話027(226)3241

ぐんま優良木材品質認証センター

電話027(266)8220

各地の便り



作業の様子

竹林整備と竹材の有効利用に向けての取り組み

里山の竹林はタケノコのほか、生活用品や農業用具として広く利用され、人の手によって整備・管理されてきました。しかし、近年は竹の利用価値が薄れ、放置され荒廃した竹林が増えています。荒廃した竹林は、農地や造林地へ侵入、大雪などによる倒伏で道路の遮断等交通障害、

鳥獣害の温床となるなど、生活環境に悪影響を及ぼしていて、早急な対策が求められています。このような中で、渋川市では平成二十一年度から竹林の整備に着手し、NPO法人竹取物語に委託して、竹林整備を進めています。平成二十六年度からは、『ぐんま緑の県民基金事業』の市町村提案型事業を活用して、荒廃した竹林の4か所 0・75 haを整備しました。NPO法人竹取物語は、伐採した竹の有効利用を図るため、様々な取り組みを行っています。粉碎した竹チップのうち粒径の大きなものは同法人が所有する炭化プラントで竹炭に加工し、粒径の小さなものは竹チップのまま土壌改良材として利用しています。散布試験は、農家の協力を得て竹炭・竹チップを水田等ほ場に施し、農作物の生育及び収量、食味等の調査を行っています。また、日本特用林産振興会の補助事業を利用して、菌床きのこの培地基材としてオガに混ざる発生試験を行いました。このほか、群馬県立農林大学校の森林・環境コースの学生が取り組む課題研究、竹チップを使用した菌床きのこの発生試験に、竹チップを無償提供しています。竹は繁殖力が旺盛で極めて成長の早い植物で、資源としての有効利用が期待できますが、



整備された竹林

実際にはほとんど使われていません。有効利用と組み合わせさせた竹林整備は非常に効果的な取り組みであり、渋川市は今年度も事業を継続し、竹林整備による快適で衛生的な住環境を保持するとともに、NPO法人竹取物語も竹材資源の有効利用に向け試験を続けていきます。

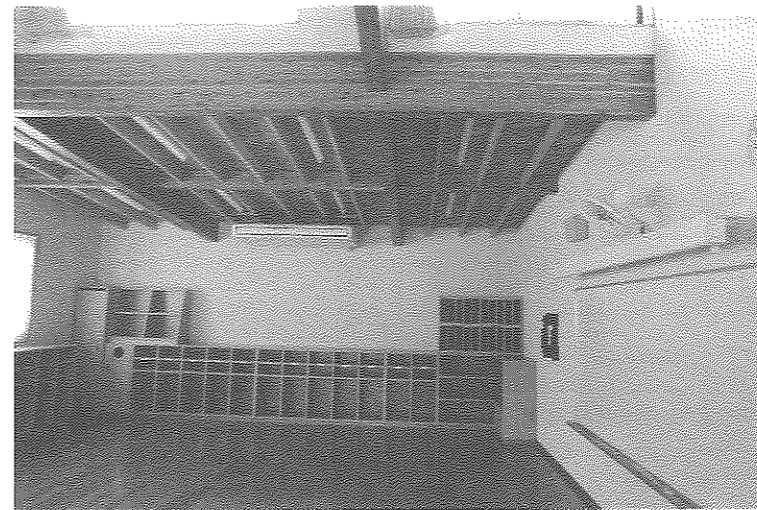
(渋川森林事務所通信員)

普及コーナー

○森林・林業再生基盤づくり交付金事業 (国補助)

地域材を利用した公共建築物等の整備を支援します。

- ▽木造公共建築物等の整備
- ・事業主体 地方公共団体、地方公共団体が出資する法人等
- ・対象施設 木造公共施設、木質内装、木製外構施設等



幼稚園への県産木材利用

- ・交付率 1/2以内
- ・その他 地方公共団体について、木材利用方針※が策定されていること。

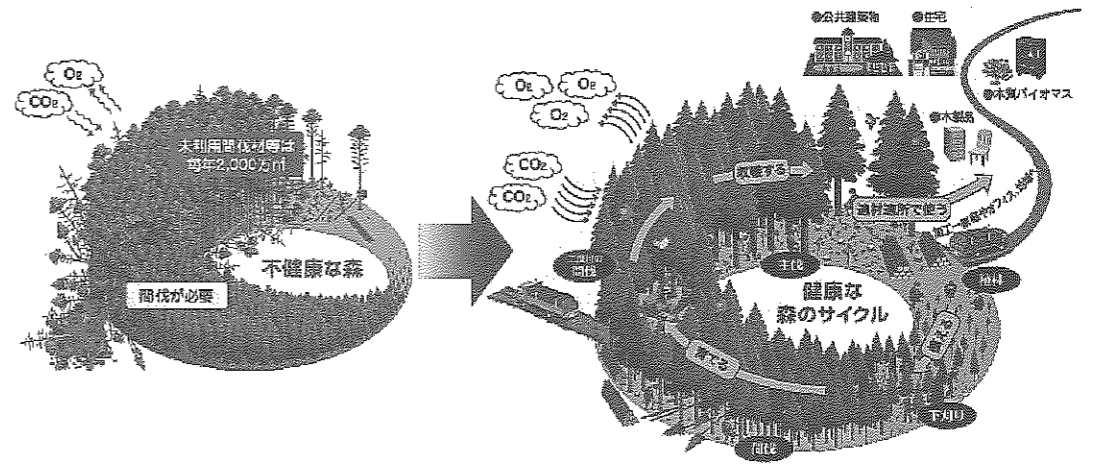
○県産材活用推進枠事業 (県補助)

県庁各部署が実施する公共工事や公共施設整備のうち、率先して県産木材を活用して行う特色ある取組みを支援します。新たな施設等の整備を行う「新規整備」と既存施設の老朽化等による再生を行う「再生



公共事業への県産木材利用

【木材利用の意義】木材の利用は、快適な住環境の形成や地域経済の活性化につながるのみならず、地球温暖化の防止にも貢献します。



整備」の二つ目のメニューがあり、県庁各部署からの応募により林業振興課等が審査のうえ、支援額、支援箇所を決定します。

各地の便り

春の緑化行事について

高崎市恒例の「たかさきスプリングフェスティバル」が平成27年4月29日（昭和の日）に音楽センター前広場で開催されました。当日は朝から快晴に恵まれて、多くの人で大変な賑わいでした。このフェスティバルと同時に開催の緑化行事として行う苗木配布会を、「高崎市緑化運動推進委員会」と「高崎地区郷土緑化推進委員会」が共同で開催しました。また、併せて緑の羽根街頭募金も実施



オープニングステージ(ぐんまちゃんも参加)

当日は配布用苗木等として、ハナミズキほか4種類930本、花鈴650、花の種1000個程準備しました。苗木配布会は午前11時からの予定でしたが、早い時間から多くの人々が長蛇の列を作り、開始から1時間程で全てなくなり盛況のうちに終了となりました。今後もうこうしたイベントを通して、緑化運動等に対する理解がさらに深まることを期待しています。

(西部環境森林事務所通信員)



苗木配布会の様子

ぐんま緑の県民基金事業を活用した森林環境教育

平成26年4月からぐんま緑の県民税が導入されましたが、その税事業である森林環境教育が藤岡市内において実施されました。2月と3月に実施され、ともに30人ほどの児童が参加し、林業体験を行いました。

児童たちは、最初に森林の働きや林業の重要性を学び、間伐作業の実演を見学しました。実演では、講師が狙ったところに木を倒すと歓声があがりました。

続いて、ノコギリを使い、間伐作業を実践



間伐作業体験

「緑の募金と苗木配布会」今植えた小さなその芽が大きな未来

四月一日から五月三十一日までは緑化運動推進期間ですが、利根沼田地域では、例年この時期に開催される沼田公園の「さくらまつり」行事において、「緑の募金と緑化苗木の配布会」を行っています。

今年四月十二日（日）に、利根沼田地区郷土緑化推進委員会の主催で、沼田商工会議所青年部にも応援をいただき実施しました。当日は天候に恵まれ、桜の開花もちょうど見頃を迎え、来場者は例年になく多く、周辺



苗木の配布



横山委員長(沼田市長)挨拶

の道路も大混雑となるほどでした。

配布用の苗木は、「カツラ」「コデマリ」「ハナミズキ(白)」「ヤブツバキ」「アジサイ」の五種類で、百本ずつ、計五百本を準備しましたが、配布前から長い列が出来、瞬く間に配り終わりました。また、緑の募金にも皆さん快く協力してくださいました。

冬が長く、積雪が多い利根沼田地域では、春になると各家庭の庭先で、草木の花が一気に開花しますが、今回配布した緑化苗木も、それぞれのご家庭の庭先に根付き、地域の緑化の一助になればと願っております。

(利根沼田環境森林事務所通信員)



チェーンソー体験

してもらいました。最初はノコギリをうまく使えなかった児童も、徐々にコツをつかみ、みんなで協力して木を倒しました。

その後、講師に補助してもらい、チェーンソーや枝打ち機の体験も行いました。チェーンソー体験では、音の大きさや、振動の激しさに驚いていましたが、ノコギリとの威力の違いを実感してもらえたようでした。

最後に、木工工作やシイタケの駒打ちに挑戦してもらい終了しました。

短い時間でしたが、貴重な体験をしてもらったのではないかと思います。

(藤岡森林事務所通信員)

各地の便り

みどり市森林体験教室の開催

5月31日(日) みどり市東町にある袈裟丸山の高原で、みどり市主催の森林体験教室とハイキングが開催されました。

みどり市では、平成17年より草木ダムの水源を守るために森林体験教室として、袈裟丸山にブナの植樹を行っています。袈裟丸山は、ヤシオツツジとシヤクナゲの群生地として知られ、みどり市の豊かな自然を活かし、草木ダムの水源環境の整備と併せた観光資源としての活用も担っています。

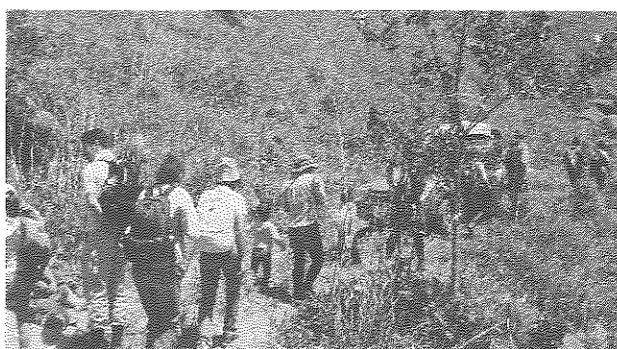
当日は、草木湖畔にある、国民宿舎「サンレイク草木」の駐車場に参加者等35名が集合して、開会式が行われました。

開会式では、みどり市長を始め、水資源機構草木ダム管理所並び桐生森林事務所より森林整備の必要性と森林とダムの密接な関係や



親子で植栽しました

森林資源としての木材の活用による森林の再生の一步が植樹であることなどの挨拶があり、その後、参加者は、用意されたバス等により現地へ



植栽後ハイキングへ

の移動となりました。バスは、袈裟丸山の登山道である林道で参加者を降ろし、参加者は、植樹地である袈裟丸山の斜面まで作業道を登りました。

現地では、苗木であるブナの話から始まり、粉炭の利用と植栽の方法が説明され、1本のブナ苗木に対し、2袋の粉炭が配られ、唐鍬により100本のブナの植樹を参加者全員が行いました。

天候にも恵まれ、爽やかな風が吹く中、ブナの植樹に汗を流した参加者は、植樹後、お弁当を持ってシロヤシオとアカヤシオの群生地までのハイキングを楽しみました。

(桐生森林事務所通信員)

愛される地元の里山づくり

群馬県では大切な森林を守り育て、次代に引き継ぐために「ぐんま緑の県民基金」を導入しました。税収は「ぐんま緑の県民基金」に積み立てられ、水源地域の森林整備のほか、荒廃した里山地域や平地林の整備に活用されます。甘楽町では、善慶寺地内の紅葉山周辺を地域住民と一体となった里山の整備に取り組みしました。

標高二四五メートルの紅葉山頂は「もみじの名所」として親しまれておりますが、里山の原風景であった周囲の桑園は放置され、さらに竹や篠の侵入で荒廃してしまいました。今回「ぐんま緑の県民基金事業」が導入されたことをきっかけに、町が地域住民に呼びかけ、紅葉山周辺の整備が実現しました。

事業推進に向けて、町や林業普及指導員が地元住民との意見交換会や現地調査などを重ねてきましたが、こうしたプロセスは事業の趣旨を広め、目的税への理解と関心を深め、参加を促すものと考えています。

基金事業によって、はびこっていた竹藪を伐採・粉砕したのち、四月十一日、約五十名の地元ボランティアにより、モミジ、蜜柑、花桃等の樹木を植えました。充実した作業を通してさらに愛着が深まり、紅葉山がこれか



地元住民との意見交換会

らも「紅葉の名所」「花の名所」として愛され親しまれる里山として引き継がれるものと期待しています。

皆様にはぜひ紅葉山を訪れてみていただき、これを里山整備の参考に「ぐんま緑の県民基金事業」を活用した「地域の里山再生」に取り組んでいかげでしょうか。

(富岡森林事務所通信員)

各地で苗木配布会を開催

今年も春緑化シーズンを迎え、吾妻地区郷土緑化推進委員会において、緑化運動推進期間内に各町村等の協力を得まして緑化苗木配布会と緑の募金活動を実施しました。

各地の実施状況は次のとおりです。

- ・中之条町 四月十六日 安市会場
- ・東吾妻町 四月十九日 安市会場
- ・婦恋村 四月二十九日 安市会場
- ・長野原町 五月一日 八ッ場道の駅



緑化苗木配布会(東吾妻町)



子供に人気の水仙ちゃん

東吾妻町は、原町の八坂神社周辺で安市祭が行われ、その会場にて実施しました。当日は、町長を始め町議会議長の出席もいただき、また、それに加えて、地元東吾妻町のマスコットであります「水仙ちゃん」も募金に協力していただきました。水仙ちゃんは地元の子供の人気物で、緑化推進活動に一役かかっていました。

(吾妻環境森林事務所通信員)

森の談話室



競技の様子 日本伐木チャンピオンシップIN青森

「チェーンソー」は危険な道具である。これは私がチェーンソーに対して持っている認識です。だからこそ、安全に使いこなすためには高い技術を身に付ける必要があります。そして、その道を極めることがチェーンソーマンとしての誇りでもあります。普段の仕事では、間伐や下刈等の森林整備

チェーンソーマンとして
多野東部森林組合 今井陽樹さん



世界伐木チャンピオンシップ 日本代表メンバーと(左から2番目)

に従事しています。また、冬場は主にツリークライミングの技術やクレーンを利用した特殊伐採などを行っています。チェーンソーや刈払機を使わない日はほとんどありません。2014年9月にスイスで行われた世界伐木チャンピオンシップに日本代表として出場する機会を得ました。それから安全に対する意識が今まで以上に高まり、チェーンソー作業時には防護服の着用を常とし、移動時には必ずチェーンブレイキを掛けるなど、危険を減らす動作を徹底しています。高度な技術を体得し、チェーンソーマンと



地元小学生を対象にした間伐体験会

しての自覚が芽生えることで、私たちの仕事はより深みを増すのではないのでしょうか。仕事に対して、自信を持って主体的に取り組むことで、林業はより活性化し発展していくのだと思います。「チェーンソーマンとして生きる」その醍醐味を世界大会出場の経験を活かして普及していくとともに、これからも更に技術の向上を目指し、同じ林業に携わる人達と一緒に切磋琢磨していきたいと考えています。

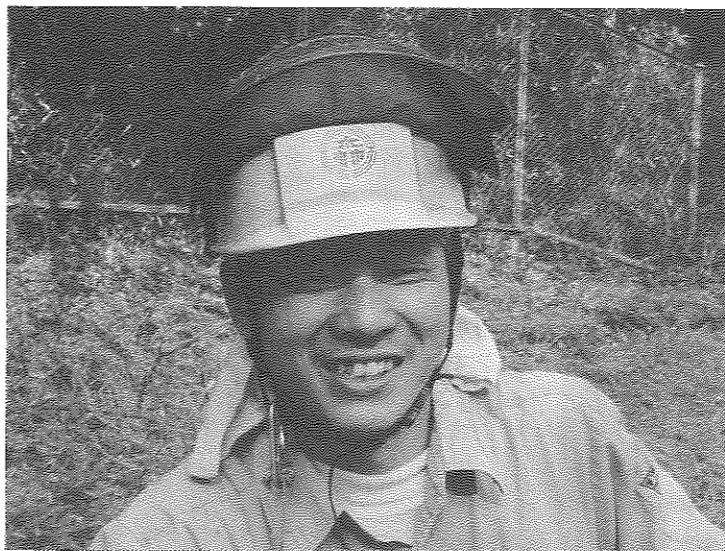
地域を担う人



碓氷川森林組合

須田 光

一 趣味
車、スノーボード、バイク
二 今後の抱負
色々なことを学び、経験し山仕事に活かしていきたい。また、資格など積極的に取得していきたい。



碓氷川森林組合

日部 隆広

一 趣味
釣り、車
二 今後の抱負
何事にも諦めずに一生懸命頑張りたいと思います。継続は力なり！



烏川流域森林組合

丸山 徹

一 趣味
スノーボード
二 今後の抱負
林業の世界に入って三年、技術はまだまだ未熟ですが、覚えたことを生かして儲けられる林業を目指して頑張っていきたいです。



あいさつする新井雅博新会長

林業改良普及協会 第五十六回通常総会

第五十六回通常総会を五月二十二日、群馬会館において、大澤群馬県知事(吉川副知事)、新井県議会副議長をはじめ多数のご来賓をお迎えして、会員多数の参加を得て盛大に開催しました。

冒頭、星野会長は、「県内の森林・林業を取り巻く諸情勢は大変厳しいが、林業はいろんな意味で今内外から注目されている。林業

改良普及協会としても、団結して県勢の発展に協力をしていきたい。」と挨拶されました。

大澤知事(吉川副知事)は、「本県は県土の7割近くが森林で、この森林を守り、生かすことが環境や地域の活性化につながる。皆様には県行政の推進に特段のご配慮をいただいていることに感謝する。関東一の林業県への飛躍に向けてしっかりと取り組んでいく。」と大澤知事の言葉を代読しました。

つづいて新井県議会副議長は、「森林は私たちの生活を支える多面的機能を有し、重要な役割を果たしている。林業を取り巻く情勢は厳しいが、結束をさらに強め、本県林業の発展に一層のご協力を」と呼びかけました。

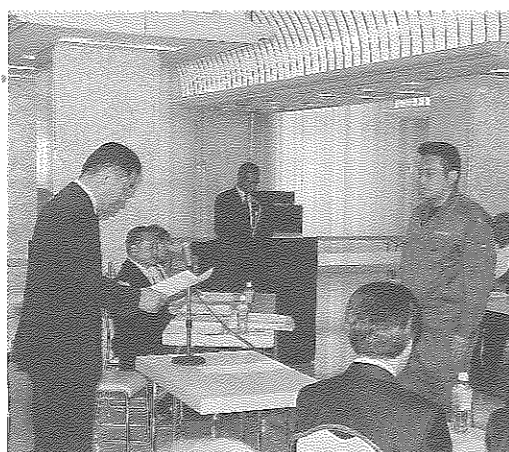
優良林業推奨行事表彰式後、議事に入り、全ての議案について提案のとおり満場一致で承認されました。

また、役員の変更では長年本会の発展に尽力された星野巳喜雄会長が退任され、新会長に新井雅博氏、副会長には大手治之氏、新井和子氏がそれぞれ選任されました。

平成26年度優良林業推奨行事表彰式

総会開催に先立ち、平成26年度林業経営推奨行事及び間伐コンクール入賞者表彰式が開催されました。8名の入賞者には県知事、県森林組合連合会長、県造林協会長、県普及協会会長から賞状と記念品が贈られました。

最優秀賞(知事賞)	新井 啓泰 (神流川森林組合)
優秀賞(森連会長賞)	曾根 守 (烏川流域森林組合)
〃(造林協会会長賞)	萩原 祐一 (利根沼田森林組合)
優良賞	村田 貴志 (渋川広域森林組合)
〃	田島 浩 (わたらせ森林組合)
〃	土屋 守男 (吾妻森林組合)
〃	赤岡 正雄 (赤岡木材)



表彰式の様子

ニホンジカの効率的捕獲について

本誌百八十七号において、ニホンジカにリアルタイムGPS首輪を装着し、その行動を把握し、捕獲対策などに役立てる研究について紹介しました。その続報として「どうやって捕獲に結び付けるか」を紹介します。

シカの生態行動を知ることが「研究」としては興味深いものですが、現場で利用可能な実用的な研究としては不十分です。

得られたデータを捕獲対策に活用することがこの研究の目的です。これまでの研究で明らかとなってきたことについて少し触れてみましょう。

みなさんが「山にたくさんシカがいる」と言っても、実際にはシカの分布は偏在的で時間と共にその場所は変化します。獣道にくくりわなを仕掛けても、そのわなの直径はわずか十二センチです。わなを踏む確率は非常に低く、捕獲効率が悪い原因となっています。

そこで、発想されるのが「集めて捕獲する」という考え方です。どこで、どのように餌を与えれば、餌に対してシカの行動変化が起きるのかを分析しました。

シカを集めるため配合飼料、粉碎ヘイキューブ、米ぬか、フスマ、トウモロコシ、粗塩、食塩、鈣塩などを用いて誘引試験したところ、扱いやすく入手性が良い、乳牛用配合飼料が最適との結果を得ました。

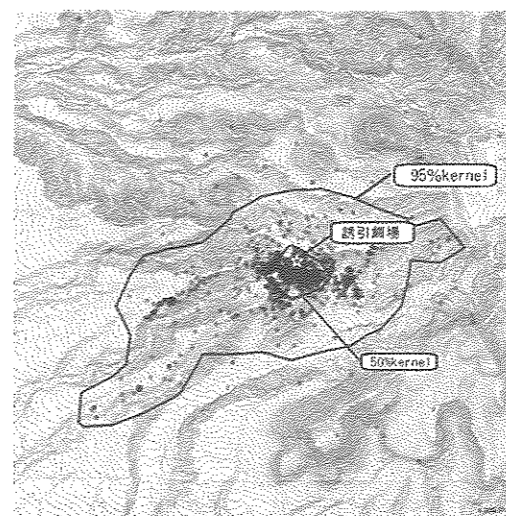
その給餌方法には、塩ビパイプによる簡易



餌に寄ってきたシカ

給餌器を製作し、写真のように給餌しました。そこに寄ってきたシカを捕獲し、リアルタイムGPS首輪を装着・放獣し、その行動を分析したところ、非常に興味深い結果が得られました。

写真に映っているシカは、この場所で捕獲され、GPS首輪を装着し放獣した個体です。この個体の移動データを図に示します。誘引餌場を中心にシカが周辺をとっても良く利用していることが分かってきました。図中で50%カーネルと書かれている活動の中心範囲のほぼ中央に誘引餌場があることから、餌付いたシカは、餌場を中心に狭い範囲で行動し



誘引されたシカの行動圏

(林業試験場 企画・自然環境係)

ていることが分かりました。

このような情報を参考にして、複数の場所で誘引捕獲を行いました。その結果、わなを設置して一〜七日目の間にシカを捕獲することができました。わな設置から捕獲までの平均日数は一・三日でした。従来の獣道にくくりわなを設置する方法と比較すると十四〜百倍ほど高い捕獲率となりました。誘引捕獲は、確実な誘引ができた餌場のみにくくりわなを設置することで、わなの数を少なくすることができ、見回りの労力を減らしながら、確実に捕獲頭数を稼げる良い方法のようです。